



矢板中央高等学校サッカー部

第94回全国高等学校サッカー選手権大会

栃木県予選 決勝 対 真岡高校 3-0

全国選大会 初戦 対 大分高校 (大分県)

12月31日(木) 14:10 ~ 等々力スタジアム (川崎市)



矢板の一等星

— キラリと輝くサッカーのまち —

「サッカーのまち矢板」「サッカーが盛んなまち」
県内でもそのような呼び声が高い矢板市。その
サッカーの歴史は古い。

昭和55年に開催された「栃の葉国体秋季大会」
で少年サッカーの会場となったことを皮切りに、平
成5年には、「全国高等学校総合体育大会」のサッ
カー会場となった。

市内にはサッカーチーム「ヴェルフェたかはら那
須」があり、トップチームは関東一部社会人リーグ
で活躍しているほか、小学生の部でも優秀な成績を
収めている。さらに近年では、全国高等学校サッカー
選手権大会に「矢板中央高等学校」が栃木県代表と

して出場し、過去には全国3位、ベスト8の実績
を残すなど、全国にその名を轟かせている。

『矢板市の輝く素晴らしさとは何か?』

『サッカーなどのスポーツでまちおこしはできない
のか?』

『多くの交流人口を生み出すことはできないか?』

『既存の拠点施設とうまく連携できないか?』

今号では、地方の創生が叫ばれている今、サッカー
などのスポーツの活用と、豊かな大自然が残る矢板
市内の施設を融合した「矢板の創生」についての可
能性を探った。

NO.1 矢板 の一等星を 探せ

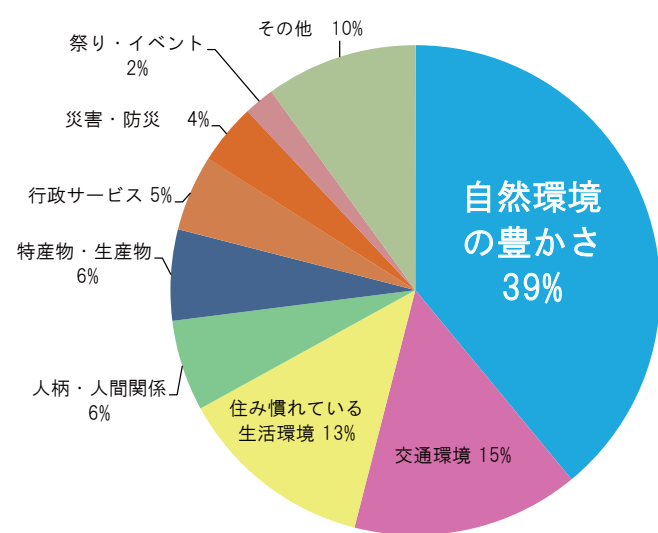
Look for a star of the first magnitude of Yaita
「矢板の1番って何？」

皆さん、何が矢板の1番で、魅力として考えているのでしょうか？人によりそれぞれ考えがあると思いますが、総合戦略策定に向け、ご協力いただいた市民アンケートから、今後の可能性を探ってみました。



市民アンケートから見た「矢板市の魅力」とは？

① 18歳以上の方

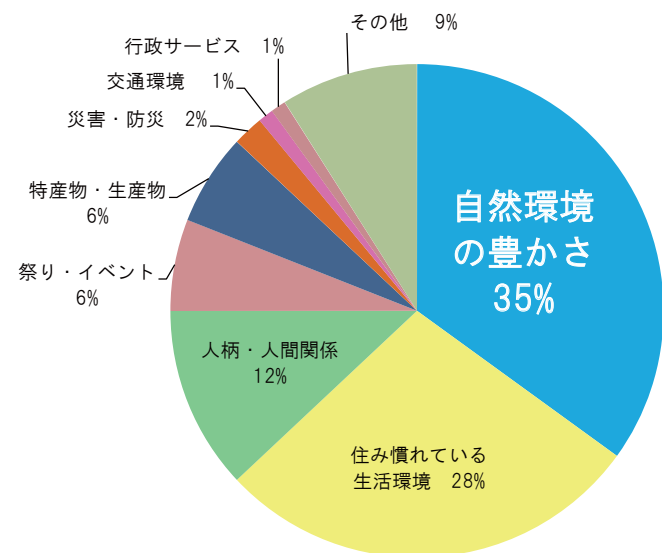


自然環境の豊かさが1番！

矢板市の総合戦略の策定に向け、無作為に18歳以上の市民2,000人の方を対象としたアンケートを実施し、有効回答数667人、回収率29.7%を得ました。また、同時期に市内の高校生や専門学校生を対象とした進路に関するアンケートも実施しました。ご協力いただいた皆さん、誠にありがとうございました。

質問項目の1つとして、矢板市の魅力についてお伺いしました。①が18歳以上の方の結果です。39%の方が自然環境の豊かなところが矢板市の魅力であると回答しました。具体的には、「山々や緑の木々、田畑など自然が豊かで、景色が素晴らしい」との意見が多くありましたが、特に高原山の素晴らしさについての意見が多くありました。次に、15%の方が国道4号や鉄道駅、

② 高校生・専門学校生の方



高速道路のインターチェンジなどの交通環境が充実しているところを挙げました。そして13%の方からは、「のどかで治安がよく、静かで落ち着いている、田舎過ぎずに住みやすい」など、生活環境についての意見がありました。

若い人も自然が1番！でも、

②が市内在住の高校生・専門学校生の結果です。

ここでも矢板市の魅力は、自然環境が豊かなところとの結果になりました。また、若い世代においては、生活環境の豊かで過ごしやすいところを自然環境が豊かなところと同じくらい、魅力としてとらえていると回答しています。

一方、①で多かった交通環境の利便性については、あまり魅力としてとらえていないことが分かりました。

今後、矢板市の1番の魅力をどう活用していくのか。例えば、



自然を守り、魅力を発掘・発信

アンケートの結果を受け、まずは多くの市民の皆さんが、矢板市の素晴らしい魅力としてとらえている豊かな自然を守っていく必要があります。ゴミが散乱していたり、荒れた山々では、魅力が半減してしまいます。

現在でも多くの方が、高原山などの豊かな自然を守る活動していますが、この流れを広げて自然の素晴らしさを磨いていかなければなりません。また、違った新たな視点で自然の魅力を発掘・発信していく必要があります。現在、市の自然の代表的な高原山八方ヶ原の魅力をまとめたホームページや動画、冊子の製作をしています。

豊かな環境を楽しむために

市では昨年、八方ヶ原の自然を活かしたヒルクライムレースを開催しています。今年は、昨年度を大きく上回る482人の方に、市内外から参加していただきました。その参加者に聞いたアンケート



によると、「普段の生活とは違った自然豊かな環境の中で、スポーツを楽しみ満足した」という感想が多くありました。これこそが自然とスポーツを融合した新たな観光の形と言えるのではないのでしょうか。

スポーツツーリズムとは？

プロスポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指す取り組みのことです。観光庁が「観光立国戦略」の一環として着目し、2012年4月には産学官の連携組織の日本スポーツツーリズム推進機構が設立されました。矢板市でもスポーツを通じた交流人口増加を目指して、他の観光資源との連携し、地域経済の活性化を図っていく必要があります。

矢板市の素晴らしい自然環境、盛んなスポーツ、市内各所に存在する拠点となる施設。

今後は、東京オリンピックや栃木国体などを見据えながら、自然とスポーツ、そして各種拠点を線で結び付け、融合させた、さまざまな企画やイベントなどを提案していきたいと考えています。

NO.1

矢板 の拠点で 創生

We create it at a base of Yaita

まずは、矢板市の自然の素晴らしさに興味を持っていただき、深く知っていただき、来ていただく。その流れを確立するためには、市内の拠点となるそれぞれの既存施設が、役割を明確にし、特性を高めて「**拠点の融合**」を行っていく。そして、矢板市を訪れていただいた方に、バリエーション豊かな滞在プランを示していく必要があります。

山遊び拠点

山の駅たかはら

年間約 13 万人が訪れている八方ヶ原。その中核を担う施設で、ツツジなどの開花や山歩きの情報を発信している。また、一年を通して施設主催のイベントを行っている。

健康拠点

城の湯温泉

年間約 13 万人が訪れている温泉施設。弱アルカリ性の良好な湯質を求め、県内外から多くの方が訪れている。平成 28 年度から健康づくりに向けた施設として改修予定。

体験拠点

観光農園

市内には、リンゴ園やブドウ園など収穫体験の可能な観光農園が数多くある。特に 20 軒以上あるリンゴ園には、収穫体験や軒先販売のために、シーズンだけで年間 7 千人以上が訪れている。

滞在拠点

宿泊施設

市内の宿泊施設には、高校生や大学生が年間 1 万人以上宿泊し、主にスポーツ関係の合宿を行っている。中には卒業して、社会人になってからも矢板市を訪れてる方も多し。

拠点 の融合

観光拠点

道の駅やいた

年間約 96 万人が訪れる矢板最大の誘客施設。直売所、レストラン共に地産地消にこだわった販売手法で、毎年売り上げを伸ばしている。リピーター獲得のために、商品数の増加やイベントの実施などを行っている。

拠点を結ぶ、拠点が繋がる スポーツツーリズムプラン (案)

案 1) スノーシューハイクと温泉

銀世界の高原山で雪遊びを満喫した後は、温泉に入ってゆっくりと！

案 2) 自転車レース観戦とリンゴ狩り

プロレースを観戦し、その後リンゴ狩りを楽しむ。次の日は自分でも市内をサイクリング！



YAITA スポーツツーリズム号

Tochigi football center

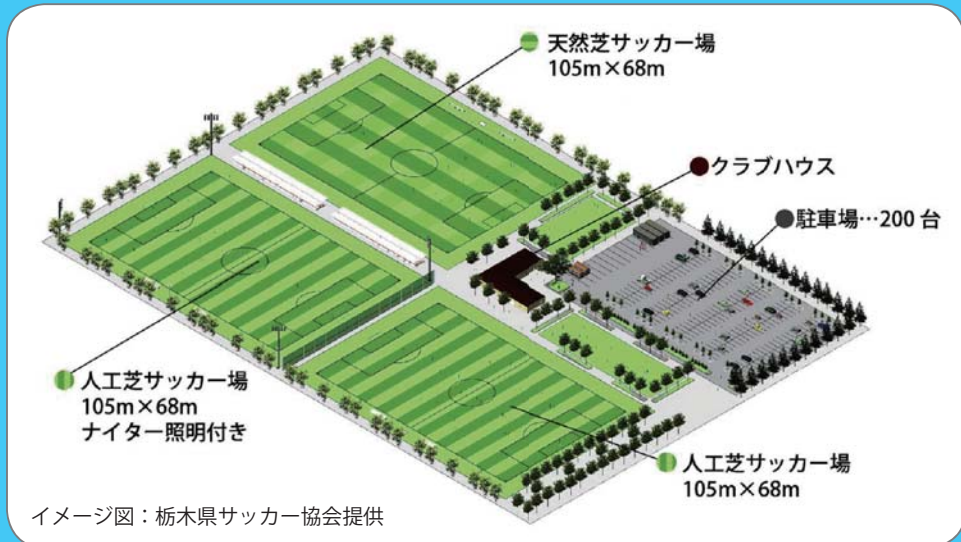
代表選手の合宿地、練習・講習会場、 ほかのスポーツとの連携拠点

(仮称) とちぎフットボールセンターとは、栃木県サッカー協会が平成 27 年 7 月に発表した構想で、県のサッカーの振興と強化、地域活性化などの拠点となる施設のことです。今後、平成 34 年に開催される栃木国体のための活動拠点にするほか、さまざまなスポーツ振興との連携を行うこ

とができます。矢板市では、この趣旨に賛同し誘致活動を行っていくため、市末広町の JT 倉庫跡地の土地約 4.3ha を約 3 億円で取得しました。

今後、誘致に成功すれば、この場所にサッカー場 3 面、クラブハウスなどを整備していき、矢板市のスポーツ交流拠点として活用していきます。

(仮称) とちぎフットボールセンターのイメージ図



駅から
徒歩 5 分
400m

矢板 IC
から車で
5 分

近くに
宿泊施設
が充実

近くに
商業施設
が充実

イメージ図：栃木県サッカー協会提供

11/19
(木)

(仮称) とちぎフットボールセンター
誘致市民の会の設立会議を開催しました。



市の生涯学習館で、「(仮称) とちぎフットボールセンター誘致市民の会」の設立会議が開催されました。この日は、市内関係団体の代表など約 62 人の参加をいただき、フットボールセンター誘致のためのスケジュールや役割分担などが決められました。会長には、矢板市長が就任し、市民が一丸となって「オール矢板」で誘致活動を行っていくことが承認されました。

また、会議の中ではこの施設ができることで

「サッカーのまち矢板」

「スポーツのまち矢板」

「市民の交流拠点」

の中心施設として、まちづくりの推進を図り、矢板創生の大きな柱としていくことなどが話されました。

今後、会ではフットボールセンターの矢板市への誘致を何としても成功させるために、署名を集め、事業提案書とともに栃木県サッカー協会会長へ提出することになります。

署名の様式は、班回覧で各ご家庭に回覧されるほか、ホームページでもダウンロードすることができます。署名の提出期限は、12月15日(火)までとなっておりますので、趣旨をご理解の上、1人でも多くの方のご協力をお願いいたします。

提出・問い合わせ／矢板市総合政策課 ☎(43)1112

HP <http://www.city.yaita.tochigi.jp>

設立趣意書

矢板市では、これまで昭和55年の栃木の菓園体サッカー競技会場をはじめ、市内高等学校サッカー部の全国大会出場や、社会人サッカーチームによる関東リーグでの活躍など、サッカーは矢板市民にとって馴染み深いスポーツです。

このたび、栃木県サッカー協会から(仮称)とちぎフットボールセンター整備構想が発表されました。この施設は、県内で唯一のフットボールセンターとして、サッカー選手や指導者の育成強化を行なうほか、全国各地から関係者が集まり、様々な交流の場として活用されるなど、地域活性化の拠点として整備されます。

この発表をうけまして、矢板市は県内でいち早く(仮称)とちぎフットボールセンター誘致に名乗りを挙げました。候補地であるJT倉庫跡地は、JR矢板駅から南東へ400メートルの場所に位置し、東には国道4号が、また、東北自動車道矢板インターチェンジから車で約5分と、抜群の交通アクセスを有します。さらに、近隣には商業施設や宿泊施設、病院などが集約されており、(仮称)とちぎフットボールセンターとして最高の立地条件にあります。

この、(仮称)とちぎフットボールセンターは、矢板市の地方創生の一翼を担うものであり、県内唯一の施設として新しい人の流れをつくり、まちに賑わいと活気を生み出す「矢板市まち・ひと・しごと総合戦略」における重要施策と位置付けております。

この場所にフットボールセンターを整備することで、多くのサッカー関係者に訪れていただくほか、各種スポーツ大会や練習会、イベントの開催により、多くの市民にも利用いただけるとともに、交流人口の増加に寄与するものであります。また、市民の健康づくりや高齢者の生きがいづくりの場、防災拠点施設機能なども併せ持つなど、公益的な機能や役割を担う、矢板市のまちづくりの拠点として整備していく予定です。さらには、「スポーツのまち」として、スポーツを基軸とした様々な分野との連携により、矢板市に新たな魅力を生み出してまいります。

矢板市は、これまで様々な危機に直面し、そのたびに幾多の困難を乗り越えてきました。サッカーに例えるならば、守り耐えてきた今こそ、攻撃を仕掛ける時です。

今こそ、矢板市民が一丸となって「オール矢板」で誘致活動を行なうため、(仮称)とちぎフットボールセンター誘致市民の会をここに設立し、未来の矢板市のために、(仮称)とちぎフットボールセンターの誘致を何としても成功させましょう。

平成27年11月19日(仮称)とちぎフットボールセンター誘致市民の会